

臨床工学科 ~CEニュース: Vol.2~

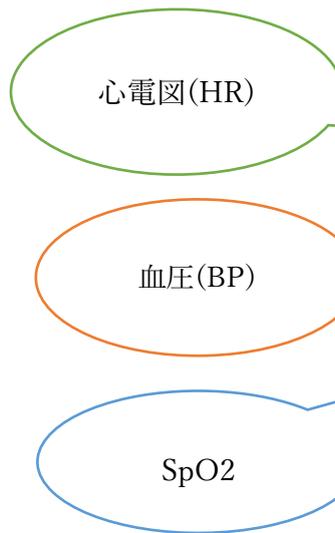
菊川市立総合病院・臨床工学科では当院で保有する医療機器の貸し出し・返却の管理をしています。病棟などへ貸し出した機器が臨床工学科の元に返却されたら全て点検を行い、汚れていないか、破損がないか、故障はしていないか等を確認して次回も患者様に安全に使用していただける状態にしています。

その中で今回はベッドサイドモニタの点検方法をご紹介します。

まずは、ベッドサイドモニタについて簡単にご紹介します。

<ベッドサイドモニタ>

ベッドサイドモニタは患者様の身体から出る情報(バイタルサイン)を画面上に表示するための医療機器です。患者様から出る情報とは主に、心電図・SpO2・血圧です。



※各値はこのように表示されます。

～点検の方法～

<点検に使用するもの>

1. 外装清拭用クロス

血液汚染など汚れが過度にある場合は写真左側のクロスを使用し、それ以外では右側のクロスを使用するようにしています。



(血液汚染など汚れがひどい場合)



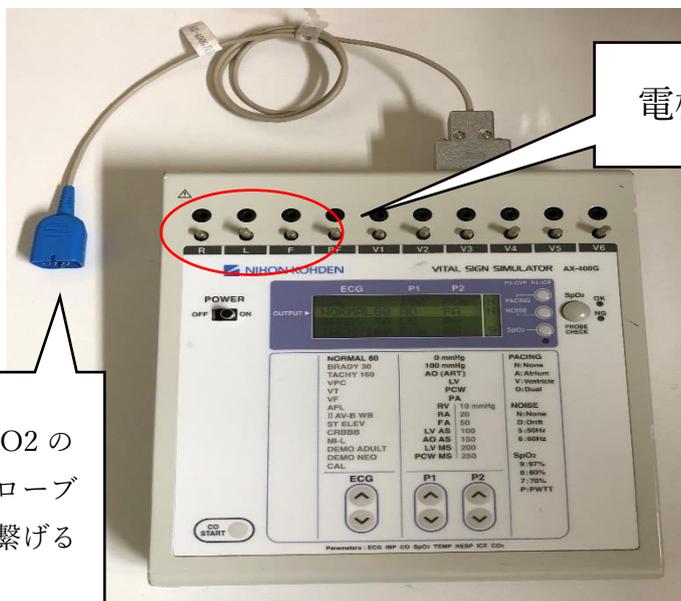
(過度な汚れがない場合)

2. 点検用シミュレーター

このシミュレーターでは疑似的に心電図波形と SpO2 の値と脈波を表示させることができます。

通常は、心電図は 80 回/分で、SpO2 は 97% で表示されるようになっています。

(パターンは何種類もあり、様々な波形を出すことも可能)

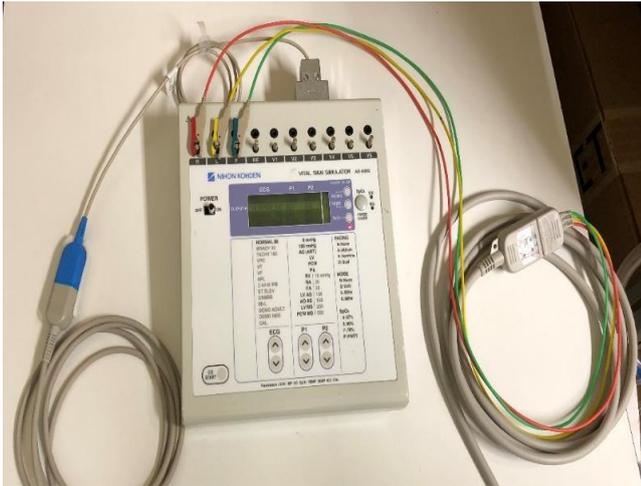


シミュレーターを使用すると、このように表示されます。



<点検の手順>

1. まずは外装を清拭する。
2. 電源コードを外して、バッテリーで作動するか確認する。
3. シミュレーターを使用し心電図と SpO2 が正しく表示されることを確認する。



4. 血圧計は実際に腕に巻き、カフに穴が開いて空気が漏れていないか、測定はきちんとできるかを確認する。



5. 各コードをきれいに束ねて次に使いやすいようにする。



6. 使い捨て(ディスポーザブル)の SpO<sub>2</sub> プローブを機器に補充し点検終了。



7. 以上の工程で波形や値が正常に表示されれば OK。これで点検終了。

この一連の点検を、機器が返却される度に毎回行います。

今回はベッドサイドモニタを紹介しましたが、臨床工学科で管理をしている機器はすべて返却される度に清拭・点検を行っています。そうすることで安全に医療機器が使用できるのはもちろん、破損や故障があった際にも患者様に使用される前にいち早く対処し、医療機器の安全使用に貢献しています。